

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯		評価基準（考え方）	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離</p> <p>↓</p> <p>位置・規模を評価</p> <p>目安</p> <p>1)1,000m程度</p> <p>2)最大寸法 20 倍</p> <p>例) 高さ 50mの場合 距離 1,000m 程度</p>	<p>●大景観と調和しているか（地域の景観の特徴との関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成基準や広域景観形成基準がある場合、景観形成の目標に適合しているか。 ・地域の景観の優れた特徴を乱していないか。 ・親しまれている眺望を妨げていないか。 	① 位置	✓	南側の既存の樹木越しに建物が見えるが、北側の住宅の視線は阻害していない。
			② 規模	✓	2階建ての建築であり、周辺住宅の建物高さとはほぼ変わらない。
			③ スカイライン	✓	北側に広がる山側の眺望を阻害していない。
中景	<p>●建物の周辺の状況がわかる距離</p> <p>↓</p> <p>主要部位を評価</p> <p>目安</p> <p>100～500m程度</p>	<p>●中景観と調和しているか（周辺景観とのバランス）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の優れた景観特性を乱していないか。 ・過剰に目立っていたり、雑然としていたり、周辺に景観阻害感を生じていないか。 	① 基調色	✓	中景からは建物は視認できない。
			② おおまかな形状	✓	切妻屋根のシンプルな形状。
			③ 主要な付属物 〔屋上設備 屋上階段 ベランダ等〕	✓	屋上はなく、ベランダにはルーバーや手摺を設け、装飾的ではない。
			④ 特殊な材料 (金属やミラなど)	✓	風景に調和しない特殊な材料は不採用。
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気がわかる距離</p> <p>↓</p> <p>ディテールを評価</p> <p>(目安 50m程度)</p>	<p>●小景観と調和しているか（通りの雰囲気と建物のデザインとの関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通りの雰囲気を悪い方向に乱していないか。 ・商店街や住宅地といった通りの性格や将来計画に照らし合わせて適当なデザインか。 ・建物の立つ場所の特性（交差点に面するなど）に配慮しているか。 	① 壁面意匠 〔ファサード意匠 側面の仕上げ 壁面設備〕	✓	近景からは建物を視認できないが、木調の建具や設備の目隠しルーバーなど、風景と調和した印象。
			③ 看板類	✓	近景からは視認できないが、施設名称サインを敷地内に設置。それ以外の広告・看板等は設置しない。
			④ アクセントカラー	✓	突出した色調のカラーは採用していない。
			⑤ 低層部の雰囲気	✓	ルーバーや木調の建具で風景と調和。
			⑤ 敷地利用 (緑化など)	✓	積極的に植栽・樹木を配置。
	●周辺の公共空間	●前面の公共空間と調和して	① 低層部のディテール・	✓	自然環境と調和するカラーや素材